

看護学科学修到達度確認表

教育目標	学修指針	レベル4 (秀)	レベル3 (優)	レベル2 (良)	レベル1 (可)
人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 DP 1	教養力	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する多面的な知識を有し、より良い文化の創造を目指すことができる。	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する基礎的な知識を有し、自らの問題として考えることができる。	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する基礎的な知識を有し、問題点を指摘することができる。	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学の内容について、自分の知っていることを述べることができる。
	人間性	看護学生として看護の対象となる人々の尊厳と権利の擁護に向けた行動をとることができる。	人間性を涵養していくための自己の課題を発見することにより、自己実現を実践できる。	自分の存在を理解し、他者の多様な価値観を受け入れることができる。	人として社会の中の一員として自らを律し、ルールとマナーを守ることができる。
他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 DP 2	コミュニケーション力	多様な価値観を尊重し、相手の発言や態度・行動を肯定的に受け止めながらコミュニケーションを発展させることができる。	相手の価値観を認め、自分の思いや意見との相違を確認しながら肯定的で前向きな関係性をとることができる。	相手の価値観を認め、感情的にならずに相手から適切な情報を引き出し、自分の思いや意見を伝えることができる。	相手の話を聴くことができ、その相手の話に対して自分の意見や思いを伝えることができる。
	社会性	看護師の社会的責務を把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持ってチームに参画・協働することができる。	保健医療福祉行政チームの一員であることを自覚し、責任をもって他者とスムーズに協働作業を行うことができる。	社会の構成メンバーの一人として、自分の位置づけや役割を述べることができる。他者と協働することができる。	社会の一員として他者と協働することの必要性を述べることができる。
チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 DP 3	専門力	看護の専門領域の知識を活用して、根拠に基づいた実践をすることができ、常に自己研鑽し続けることができる。	看護の専門領域の知識を活用して、根拠に基づいて課題解決方法を考えることができる。	看護の専門領域の知識を活用して、課題を見出すための情報収集ができる。	看護の専門領域についての基礎的な知識を有している。
	判断力	看護をめぐる諸問題について、客観的・論理的に判断をし、自己の判断を常に顧み、責任をもって行動することができる。	看護をめぐる諸問題について、客観的・論理的に判断するとともに、自己の判断を顧みることができる。	看護をめぐる諸問題についてデータをもとに客観的に矛盾のない判断ができる。	看護をめぐる諸問題について関心を持ち、収集したデータから自分なりの判断ができる。
多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成 DP 4	技術力	対象者の個別性に合わせ正確性・安全性・安楽性・効率性を踏まえた看護技術を常に提供し、その結果を対象の反応から評価できる。	対象者の個別性に合わせ、正確性・安全性・安楽性を考慮しながら看護技術を提供し、その結果を対象の反応から評価できる。	対象者の個別性に合わせ、安全性・安楽性を考慮しながら看護技術を提供し、その結果を評価できる。	対象者の個別性を考慮して、原則的な留意事項を遵守した看護技術を提供できる。
	実践力	自ら課題を見出すことができ、根拠に基づいた看護実践ができる。	自ら課題を見出すことができ、それらの解決に向けて指導を受けながら成果をあげることができる。	課題に自ら取り組み、指導を受けながら実践し、成果をあげることができる。	課題に自ら取り組む姿勢を持ち、指導を受けながら実践することができる。